

排水・雑草対策の徹底で、 単収 200kg 以上、2 等級以上を目指しましょう！

ここがポイント！！

- 1 明渠、暗渠の施工で排水対策を徹底
- 2 碎土率 70%以上の確保
- 3 「里のほほえみ」は裂皮防止のため6月上・中旬に播種
- 4 帰化アサガオ類の発生ほ場は徹底防除

1 排水対策・施肥設計

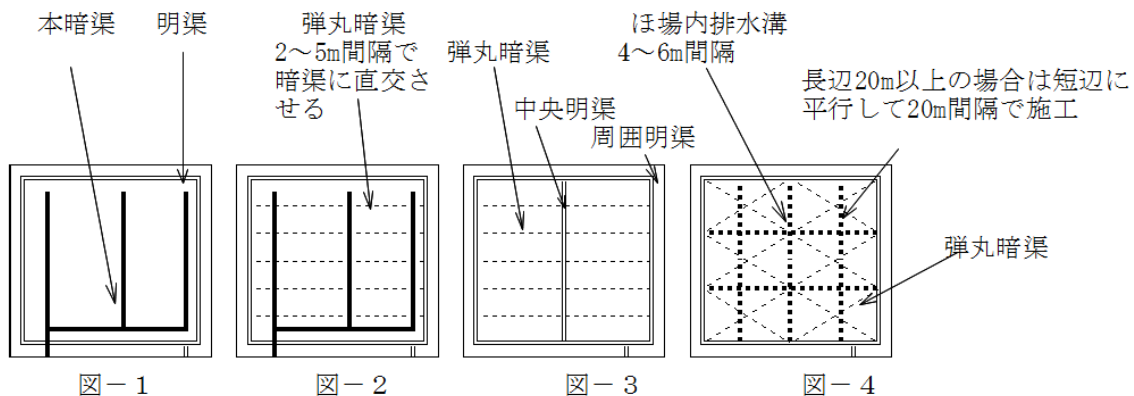
(1) ほ場の選定

- 排水の良いほ場を選ぶ。
- ほ場を団地化し、周囲からの水の侵入を防ぐ。
- 4年以上の連作は小粒化や病害虫・雑草を増加させるので行わない。

(2) 排水対策

【排水対策のめやす】・・・周囲明渠や弾丸暗渠を施工し排水を良好にする。

ほ場の状態		排水対策	参考図
本暗渠整備 有	排水良好	周囲明渠	図-1
	排水不良	周囲明渠+弾丸暗渠	図-2
本暗渠整備 無	排水良好	周囲明渠+ほ場内中央明渠+弾丸暗渠	図-3
	排水不良	周囲明渠+ほ場内排水溝+弾丸暗渠	図-4



注) 排水溝連結部分は必ず手直しを行う。

(3) 施肥

- 酸度矯正：石灰質肥料の施用で土壌 pH の矯正(目標 6.0~6.5)とカルシウム補給
(施用量のめやす「消石灰」100kg/10a または「炭カル」120kg/10a)
 - 基肥成分：10a 当たり窒素 1.5~2.5kg、リン酸 6~8kg、カリ 6~8kg を基準に施用
(施用量のめやす「ニュー大豆 800」20~30kg/10a)
- ※生育中期以降の地力窒素発現が少ないほ場では、追肥分が含まれた基肥全量施肥肥料を窒素成分で 7~8kg/10a 施用

(施用量のめやす「ワンタッチ大豆」40kg/10a)

2 耕うん・播種

(1) 適切な耕深と碎土率 70%以上の確保

目標：耕深 13～15cm、碎土率（2cm以下の土塊重量割合）70%以上

～碎土率 70%以上を確保するポイント～

- ア 排水対策を早め実施し、ほ場を十分に乾かす。
 - イ 低速走行とロータリー高回転で、丁寧に耕うんする。
 - ウ アップカットロータリーやドライブハローを使うと表層の土が細かくなりやすい。
- ※複数回耕うんする場合は、1回目を丁寧に（1回目が粗いと2回目以降は細かくなりにくい）。



(2) 播種

- 種子は播種前に塗抹等の薬剤処理を行う。（紫斑病・初期病害虫防除、鳥害防止）
- 耕うん・碎土・整地・播種は同じ日に行う。（土壌過乾燥による出芽不良防止）
- 播種量・密度のめやす

播種時期	目標苗立ち数	播種量	播種密度		
			畦幅	株間	
				1粒播き	2粒播き
5/20～6/10	9～10本/m ²	3～4kg/10a	75cm	10～11cm	21～23cm
6/11～6/20	13～18本/m ²	4～6kg/10a		6～8cm	12～16cm

- 播種深度：3～4cm（土壌水分が高めな時はやや浅め、乾燥気味な時はやや深めに調節）
- 畝立て播種は、畦の高さは10cmをめやすとし、播種後は畦間の溝を確実に周囲明渠に繋げる。

【畝立て播種の効果】

- ・土壌の通気性・透水性が改善され、地温も高まる（出芽・初期生育良好）
- ・窒素吸収率が増加し、落葉速度が遅くなる（ちりめんじわ粒発生軽減）

〈「里のほほえみ」播種時の留意点〉

- ・裂皮防止のため6月上・中旬に播種
- ・目詰まり防止のため播種機の目皿は大粒用に交換

3 雑草防除

- 耕起前に雑草が多い場合、耕起前に大豆に使用登録のある茎葉処理除草剤を散布する。
- 播種覆土後は、ただちに土壌処理除草剤を散布する。

～土壌処理除草剤の効果を高めるポイント～

- ア 碎土率を高め（除草効果向上）、覆土の厚さは3cm程度を確保する（薬害防止）。
- イ 覆土後ただちに散布し、乾燥または過湿の状態での使用を避ける（除草効果向上）。
- ウ 砂土では薬剤が土壌に吸着されず薬害を起こすので使用しない。

※帰化アサガオ類が発生している場合は、効果の高い除草剤と中耕・培土を組み合わせた体系防除を実施する。